

レポーター：こちらはどこの国の絵なんですか。

学芸員：こちらはビルマ、現在のミャンマーで描かれた作品です。

レポーター：ミャンマー！私、ミャンマーの絵は初めて見たような気がするんですけど。

学芸員：そうですね、非常に珍しい作品になります。20世紀初頭に作られた作品なんですけども、もともとミャンマーのコンバウン王朝という王朝があつて、そのまゝ、宮廷画家として活動していた人たちが、王朝がなくなったあとに描くようになった作品の一つです。

レポーター：どういった様子を描いてるんですか。

学芸員：これはですね、こちらが男性で女性なんですけど、おそらく二人は恋人同士で会ってるところなんですね。これをこのお付きのひとなのかそれを隠れて見ているのかちょっとよくわからないんですけども、一人女性がのぞいているというちょっとおもしろい場面だと思うんですが。

レポーター：三角関係のような。

学芸員：なんですかね。

レポーター：のぞいているのかみたいな、いろいろ想像ができる楽しい絵ですね。どういった目的で作られたっていうのがあるんですか。

学芸員：まだはっきりわかってはいないんですけども、ミャンマーの人たちが自分のお寺、お金持ちの人たちがお寺を自分で建てるんですけども、お寺にこういった絵を描いてもらって寄進したという説もありますし、外国人のためにつくったという説もありますね。

レポーター：いろんな説があるんですね。ちなみにミャンマーの絵というのは、見られるものなんでしょうか。

学芸員：この時代のものは数が少ないのでアジア美術館以外で見られるかどうかはちょっとあまり聞いたことはないんですけども、とても本当にめずらしい作品です。

レポーター：とても貴重な絵なんですね。技法的にはミャンマーの技法はどこで見られるんでしょうか。

学芸員：もともとは伝統的なんですよね、ミャンマーではこういう丸顔の、ミャンマーでよく人形劇をしてるんですけども、人形劇のお人形みたいな感じの丸い顔の人物というのが特徴的です。そこに、またこれも遠近法とかですね、陰影法などが使われて、その西洋の技術とミャンマーの描き方が混じった作品になっています。

レポーター：そうなんですね。